

日本温泉地域学会第37回研究発表大会・総会(野沢温泉大会)

6月5日(月) エクスカーションについて(3コースを予定)

① 生活に根差した温泉文化について

概要:

野沢温泉は自治体名に「温泉」が付く唯一の村として、昔も今も(これから)生活の中に温泉文化が息づいています。村の台所とも呼ばれる源泉麻釜(おがま)や外湯と呼ばれる共同浴場の特徴や村民との関りについてその維持と運営方法など現地を視察しながらご紹介させていただきます。

集合場所・時間: 大湯 前 10:00 集合 解散: 11:00 頃

案内人: 森 紀一氏(予定)

森紀一氏は野沢組惣代や湯沢神社氏子総代などを歴任され野沢温泉村の文化・歴史に精通しています。また豊かな温泉と湧き水の水源涵養林であるブナの森にも詳しいです。

② 温泉の「鮮度」を活かした取り組みについて

概要:

野沢温泉は30余の源泉を有し、そのほとんどが自然湧出の「生源泉」です。温泉本来の姿である自然湧出のみならず、配湯も動力ポンプを使わず自然の地形(傾斜)を活かした配湯により酸素に触れず「酸化」しない新鮮な温泉を湯船に提供しています。

温泉の鮮度について、源泉かけ流しについてなどを温泉の「酸化と還元」の簡単な実験をしながらご紹介させていただきます。

集合場所・時間: 源泉麻釜 10:00 集合 解散 11:00 頃

案内人: 森 行成氏(予定)

旅館さかやの会長。社長時代には数多くの公職や観光業界の役職を歴任され行動力を持った「まちづくり運動」は野沢温泉の基礎を固めた。野沢温泉での源泉かけ流し運動と源泉かけ流し宣言は温泉の本質を守り温泉の評価を上げる事に繋がっている。

③ インバウンドが「まちづくり」に与えた効果と事例について

概要:

野沢温泉は冬のスキーを中心としたインバウンド誘客の成功例として評価されている。スキーという外来文化を独自に発展させ、日本の田舎の素朴さや伝統文化を併せ持つ野沢温泉に毎年訪れるリピーターは多い。

かつては観光客として訪れていたが、地域に惚れ込み移住し事業を始めた外国人も多い。その中で野沢温泉の風土・水を活用している事業者をご紹介させていただきます。

集合場所・時間: 寿命延前広場 10:00 解散 11:00 頃

案内人: 河野 健児 氏(予定)

現 野沢温泉観光協会会長。

スキークロスのワールドカップ選手として12年に渡り世界を転戦。

現在は、地元・野沢温泉をベースに、キャンプや自然体験を提供する“nozawa green field”や、SUP ツアーの開催、ヴェクターグライドのマーケティングマネージャーとしてスキーの開発にも携わるなど、多岐に渡り活躍。